

2023年度

科目名称	国際看護論
授業コード	BK456
英語名称	International Nursing
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	高木 悦子 (医療科学部), 大西 奈保子 (医療科学部), 寺門 亜子 (医療科学部), 尾近 千鶴 (医療科学部), 野村 亜由美 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保健医療福祉分野における国際的視点を育成することを目的とする。世界の健康問題と関連する社会・経済的要因について理解する。また、異なる文化背景を持つ対象者を理解し、ケアに活かすための異文化看護について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この科目を担当する高木は助産師・保健師の経験を持ち、インドネシアでの生活とボランティアワークの経験による異文化理解について、近年国際的な理解と協力が求められる気候変動と看護について講義する。寺門は海外との比較研究に着手しており、国際的な視点をふまえた看護研究について講義する。大西は看護学科長として本学のシンガポール交換留学に関わり、シンガポールと日本の看護の理解から看護職者の国際協力に資する事柄について実例を交えて講義する。さらに、外部講師の野村は、医療人類学を専門とし、スリランカでのフィールドワークでの経験をもとにした論理的思考のもと、異文化理解に対するより深い学びを学生に教授することができる。
到達目標	この科目は、ディプロマポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得」し「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力」を培うために、「対象者の様々な権利や人権を尊重」した、看護専門職としての看護援助の方法に関する科目の1つであり、以下の3つを目標としている。 1. 世界の健康格差と関連要因を理解する。 2. 国際協力における看護職の役割を理解する。 3. 多様な価値観を理解し、受容することができる。
計画・内容	1 【ガイダンス、国際看護を学ぶ目的と看護における国際感覚】インドネシアの邦人としての経験から 担当教員：高木悦子（助産師、保健師、看護師） 2. 【看護研究における国際比較】オーストラリアの緩和ケアと看護師のストレスマネジメントについて 担当教員：寺門亜子（看護師） 3. 【医療人類学と異文化理解】人間と文化と健康 担当教員：野村亜由美（保健師、看護師） 4. 【医療人類学と異文化理解】病気概念 - 病気観と世界観 担当教員：野村亜由美（保健師、看護師） 5. 【シンガポールの医療と看護】シンガポールの医療制度と看護の仕組みと国際協力の在り方について 担当教員：高木悦子（助産師、保健師、看護師） 6. 【アメリカにおける依存症グループへの支援活動】 アルコール依存症によっておこる健康課題とAAミーティングなどの支援活動 担当教員：尾近千鶴（看護師、心理士） 7. 【医療人類学と異文化理解】フィールドワークとは 担当教員：野村亜由美（保健師、看護師）

2023年度

計画・内容	8. 【医療人類学と異文化理解】スリランカにおける老いと認知症 担当教員：野村亜由美（保健師、看護師）
授業の進め方	事前資料がある場合は、少なくとも講義の2日前には、資料を掲示板に掲示する。学生は資料を読んでおくこと。 これらの資料を元に講義を行う。
能動的な学びの実施	2コマずつ講義が進んでいくので、予習復習が大切となる 毎回の講義の中での質問は歓迎する。 講義テーマに関連した自己学習を毎回行い、課題を提出する。
授業時間外の学修	毎回2コマずつ早いスピードで進むため、授業ごとに、予習・復習は合計で1時間は行うこと。 毎回の課題は授業に関連する内容とし、当日周知する。 課題に関しては、約1時間程度の学習時間が必要である。 最終レポートに関しては、初回の講義で提示する。講義が進む中でテーマを絞り込みレポートを完成することとなる。約1週間くらいの時間は要するので、提出日時は必ず守る事。
教科書・参考書	1. 教科書：近藤麻里 知って考えて実践する 国際看護 第2版 2. 参考図書： ・大橋一友、岩澤和子：国際化と看護 - 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして、メディカ出版、2018年
成績評価方法と基準	以下の2つから総合的に評価を行うが、配点は以下に示した通り。 1. 毎回の課題 40% 2. 最終レポート 60%
課題等に対するフィードバック	必要に応じて、リアクションペーパーの内容を授業に反映させる。
オフィスアワー	Campus Square 参照
留意事項	自然、社会、政治、経済など最新の社会情勢やそこから生じる（影響を受け/与える）国際問題に日頃から目を向け、そこで暮らす人々の生活や健康について考えながら授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 授業の進め方 ZOOMやYou-Tubeによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する 2. 評価方法は変更ない。